

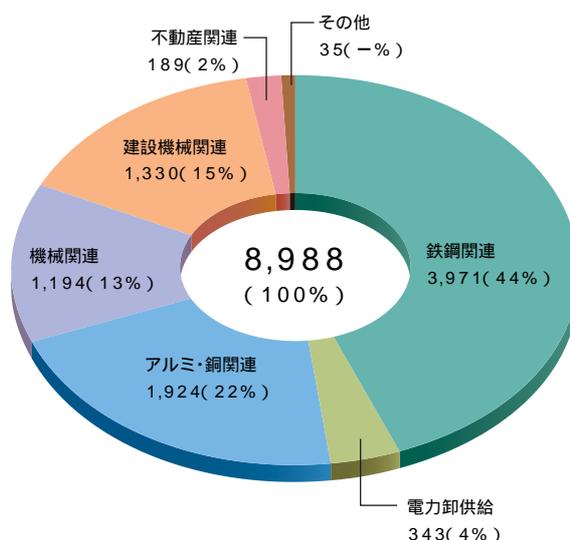
# 業績のご報告

## 当上半期の概況

当上半期のわが国経済は、企業収益が高水準で推移する中、民間設備投資が引き続き増加するとともに、雇用情勢の改善を受けて個人消費も増加基調であったことや、中国を始めとするアジア経済が好調に推移したことなどから、景気は緩やかに拡大しました。

当上半期の連結業績については、売上高は前年同期に比べ1,093億円増収の8,988億円となりましたが、営業利益は、総平均法による在庫評価に伴う収益押し上げ効果が前年同期に比べて減少したこと、および当年度に実施した機械装置の減価償却方法の変更によって償却負担が増加したことなどにより、93億円減益の988億円となりました。一方、経常利益は、持分法適用会社の収益改善などにより前年同期に比べ19億円増益の873億円となり、税引き後の中間純利益は、当上半期は特別損失が発生しなかったことなどにより148億円増益の515億円となりました。

セグメント別売上高(平成18年度上半期) (単位:億円)



(注)その他には「電子材料・その他の事業」とセグメント間の内部売上高等の消去額が含まれております。

## 鉄鋼関連事業

国内の鋼材需要は、自動車・造船などの製造業向けを中心に、中高級品分野において堅調に推移しました。一方、輸出については、中国での生産能力拡大などによって悪化していた需給バランスが、世界的な需要拡大などを背景に改善し、市況の回復が進みました。また、汎用品の需給軟化を受けて積み上がった国内在庫も改善が進み、適正水準に向かいつつあります。

このような状況の中、当社は、製造業向けの高級鋼を中心に需要を確実に取り込みながらも、国内在庫

の適正化に向けて出荷の抑制に努めたことにより、全体の鋼材出荷量は前年同期を下回りました。一方、販売価格については、受注構成の変化などにより、前年下期に比べて低下しました。また、鋳鍛鋼品や溶接材料においては造船分野向け、チタン製品については航空機分野向けを中心とした旺盛な需要を背景に、売上高は前年同期を上回りました。

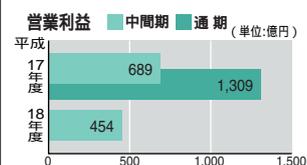
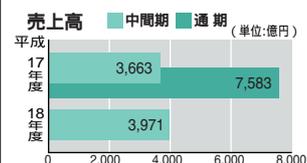
この結果、当事業の売上高は前年同期比8%増の3,971億円となりました。一方、営業利益については、前年度に収益を大きく押し上げた

在庫評価影響が減少したことや、減価償却方法の変更の影響などにより、前年同期に比べ235億円減益の454億円となりました。



連続铸造設備

### 鉄鋼関連事業



## 電力卸供給事業

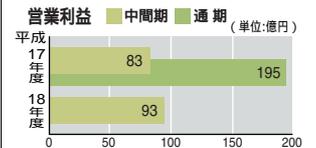
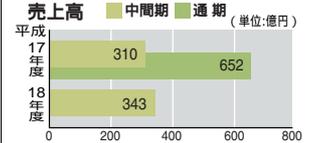
神鋼神戸発電所において、最大出力140万キロワットの電力を供給しておりますが、売上高については、電力単価に転嫁される石炭価格の

上昇により、前年同期比11%増の343億円となりました。また、営業利益は前年同期に比べ10億円増益の93億円となりました。



神鋼神戸発電所

### 電力卸供給事業



## アルミ・銅関連事業

アルミ圧延品は、自動車向けや半導体・液晶製造装置向け板材、磁気ディスク用アルミ基板などの販売が好調に推移したものの、天候不順の影響により飲料用缶材が大きく減少したことから、全体の販売量は前年同期を下回りました。

銅圧延品の販売量については、板条が自動車電装部品および半導体リードフレームを中心とした電子材料分野において引き続き堅調に推移したことや、銅管が概ね前年同期比横這

いで推移したことから、全体の販売量は前年同期並みとなりました。

また、アルミ鋳鍛造品は、自動車および半導体分野向けの販売が好調に推移しました。

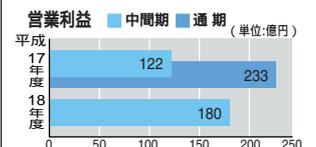
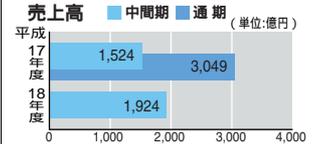
以上のような状況のもと、全体としては販売量が減少したものの、地金価格の高騰による販売価格の押し上げなどにより、売上高は前年同期比2.6%増の1,924億円となりました。また、営業利益は、在庫評価に伴う収益押し上げ効果が当上

半期も更に拡大したことなどにより、前年同期に比べ58億円増益の180億円となりました。



磁気ディスク用アルミ基板

### アルミ・銅関連事業



## 機械関連事業

国内向け機械受注は、好調な民間設備投資を背景として、圧縮機、圧延機械などが堅調に推移したことに加え、環境分野において廃棄物処理の大型案件を受注したことなどにより、前年同期比2.8%増の876億円となりました。

海外向けは、中東やアジアを中心とした石油精製および石油化学、エネルギー業界における活発な設備投資の継続を背景に、圧縮機や樹脂

機械、リアクターなどが好調に推移したことに加え、大型の天然ガススペースの直接還元製鉄プラントを受注したことなどにより前年同期比11.2%増の885億円となりました。

この結果、当事業全体の受注高は、前年同期比6.0%増の1,761億円となり、当期末の受注残高は3,171億円となりました。

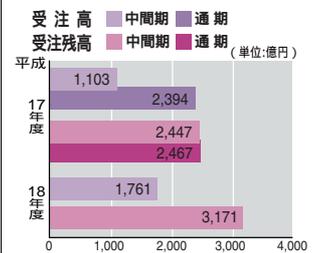
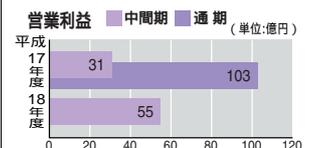
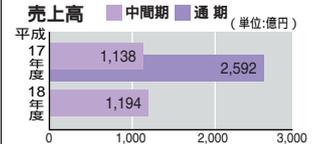
また、売上高は、好調な受注の継続を受けて前年同期比5%増の

1,194億円となり、営業利益はコスト削減などにより前年同期に比べ24億円増益の55億円となりました。



リアクター

### 機械関連事業



## 建設機械関連事業

油圧ショベルの国内需要は、公共工事が引き続き減少傾向にあるものの、堅調な民間設備投資などに支えられて好調に推移しました。海外についても、欧米市場が堅調さを維持したことに加えて、中国市場が急速に回復・拡大し始めたことなどから、総じて好調に推移しました。また、

クレーン需要についても、中東や東南アジアを中心に好調に推移いたしました。

この結果、売上高は前年同期比25%増の1,330億円となり、営業利益は前年同期に比べ32億円増益の69億円となりました。



ホイール式油圧ショベル「SK125W」

## 不動産関連事業

関西地区を中心としたマンションの竣工・引渡しが順調に進捗したことなどにより、売上高は前年同期比10%増の189億円となり、営業利益は前年同期に比べ14億円増益の27億円となりました。



摩耶シーサイドブレイス全景

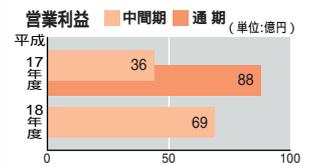
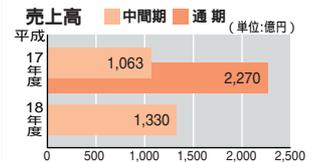
## 電子材料・その他の事業

液晶ディスプレイの在庫調整の影響により、配線膜用ターゲット材の需要拡大は鈍化したものの、材料分析事業などが好調に推移したことなどから、売上高は前年同期比8%増の305億円となり、営業利益は前年同期並みの82億円となりました。

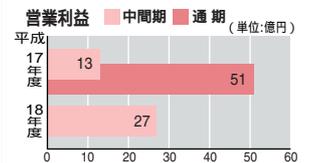
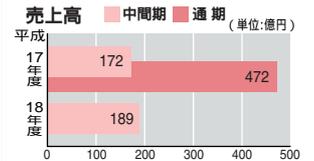


ターゲット材

### 建設機械関連事業



### 不動産関連事業



### 電子材料・その他の事業

